



魚津埋没林博物館広報誌

第18号

発行日：平成15年3月31日

編集発行：魚津埋没林博物館

印刷：魚津印刷(株)

後光さす山々



立春が過ぎてもまだまだ寒い2月初旬の朝。毛勝山や僧ヶ岳の上に光の輪が現れました。これは、かさと呼ばれるもので、上空の細かい氷の結晶で太陽の光が屈折して起きる現象です。細かく見れば、輪の最上部に上端接弧(右図A)、左右には幻日(右図B)も現れています。これらはそれほど珍しい現象ではありませんが、普段から意識していないと気付きにくいかもしれません。

(2003年2月8日 博物館駐車場で撮影)



博物館でバードウォッチング～？

学芸員 石須 秀知

魚津埋没林博物館は、海岸に建っています。敷地内には芝生の広場があって、富山湾や能登半島の眺めを楽しむこともできます。博物館の中を見終わったら、屋外に出て周囲を見回してみましょう。ちょっと目を凝らせば、そこに野鳥たちの生態を観察することもできますでしょう。

博物館の横には魚津港があり、毎朝たくさん魚介類が水揚げされます。これらの魚を狙って、周辺にはカモメ類(ウミネコ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ)やサギ類(アオサギ、ゴイサギ、コサギなど)、トビやカラス類(ハシブトガラス、ハシボソガラス)が集まってきます。カモメ類やトビ、カラス類



アオサギ

などは、港から魚などを拾ってきて、博物館の屋根の上でつついたりします。ときには、屋外通路のまんなかにかワハギの頭なんか落ちていて、ギョっとさせられたりします。落とした餌をめぐって、カモメとトビとカラスが三つ巴で奪い合いをすることもあります。

冬場は特にカモメの仲間が多く、博物館の池でよく翼を休めています。ときには、日射で温まった駐車場のアスファルトの上で、集団で昼寝をしていることもあります。車にフン

を落としていくのは困りものではありませんが、越冬のため南下してきたカモメたちの憩いの



カモメたちの昼寝

場になっているようです。この冬には、翼の付け根に赤い標識をつけたウミネコも時々飛来しました。この標識は、北海道環境科学研究センターなどがウミネコの移動範囲や経路などの実態を調べるため、繁殖地の北海道天売島で装着したものです。同センターによれば、標識されたウミネコは、遠くは鹿児島県や韓国でも確認された例があるそうで、日



識別番号54のウミネコ(ブレてますが…)

本列島周辺にかなり広く分散して越冬するようです。その中で魚津を含む富山湾周辺は、越冬地と中継地の両方の性格を持っていると思われる。博物館での目撃情報も、センターへ報告しました。

その他の海岸の鳥として、イソヒヨドリ、コチドリなども見かけます。また、冬の海上に目



ミサゴ

を向ければ、カモ類やカイツブリの仲間も見られます。上空を猛禽のミサゴが飛んでいくのを見たことも何度かあります。

博物館周辺で見られる野鳥は、これら海辺に集まる仲間だけではありません。市街地や人家周辺で普通なオナガ、カワラヒワ、キジバト、コシアカツバメ、シジュウカラ、スズメ、ツグミ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ムクドリなどがよく見られます。そのほか、アオゲラ、キジ、ジョウビタキ、ヒガラ、ヤマガラなどもまれに記録しています。

一方、博物館の建物が、鳥にとっての障害になることもあります。年に数回、展示館の中に飛び込んで出られなくなったり、ガラスに衝突したりする鳥がいます。ガラスに衝突した鳥の中には、オオヨシキリ、カワセミ、センダイムシクイ、ムギマキ、ヤブサメなど、普段



ガラスにぶつかったカワセミ

博物館の周辺では見かけない種類もあります。海岸沿いが鳥たちの移動コースになっているのかもしれません。

これまでに博物館の敷地内で確認された野鳥は40種類以上にのぼります。春と秋の渡りのシーズンには、また変わった種類が訪れてくれるかもしれません。

~~標識のあるウミネコを見かけたら~~

翼の付け根に標識(ウイングタグ)をつけたウミネコを見かけたら、標識の色(赤、水色)、番号、番号の色(白、黄、紺)、見た日付と場所など、わかる範囲で記録し、下記あてに情報の提供をお願いします。

情報送付先

北海道環境科学研究センター自然環境部
〒060-0819 札幌市北区北19条西12丁目
電話:011-747-3571
Fax:011-747-3254
電子メール:kamome@hokkaido-ies.go.jp

この調査に関するさらに詳しい情報は、インターネットの下記のサイトで見るができます。

<http://www.hokkaido-ies.go.jp/>



シリーズ

埋没林の仲間たち ⑰

ケヤキ(ニレ科)

ケヤキは、平地から山地にかけて普通に見られる樹木です。樹形が美しいため、公園の植栽や街路樹などとしてもよく利用されています。また、神社の境内や古い邸宅の庭などに、大切にされ巨木に育ったケヤキを見ることがあります。

ケヤキの木材は、その木目の美しさと耐久性の高さから、建築材、器具材などとして重用されています。



ケヤキの古木

葉は長さ5～10cm程度の卵形で、縁に鋸歯(ぎざぎざ)があり、秋には紅葉します。花は春に咲き、雄花と雌花がありますが、あまり目立ちません。



ケヤキの葉

* * *

現在の魚津市では、丘陵から山地に普通に生育し、市街地でも民家の庭や神社に大木が見られます。

魚津埋没林では、昭和5年頃の調査で材(幹か枝)が出土しています。

お知らせ

●平成15年度の行事予定

☆企画展示

- 蜃気楼写真展 ————— 5月1日～6月30日
- 宇宙へのいざない ————— 7月1日～8月17日
- 埋没林と温暖化 ————— 8月18日～10月14日
- トンボの一生 ————— 10月15日～11月15日
- 魚津の美しい自然と祭写真展 — 11月16日～12月28日
- 魚津ナチュラルギャラリー④ — 1月2日～3月31日

☆ふれあい学習会

- 四葉のクローバーを探そう ————— 5月24日(土)
- 魚津と周辺のスギをめぐる ————— 7月19日(土)
- 森の工作と味作りに挑戦 ————— 9月27日(土)
- もみじで楽しく葉書づくり ————— 10月25日(土)
- つるつるつくる ————— 11月15日(土)

※企画展、学習会の詳細は下記までお問い合わせください。

ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始(4月～11月無休)
- 入館料 ・大人(高校生以上)・・・510円 ・小中学生・・・250円
- 交通 ・JR北陸本線 魚津駅 } 下車1.5km (タクシー・・・5分)
- ・富山地方鉄道 新魚津駅 } (徒歩・・・25分)
- ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814 ☎(0765)22-1049
 ホームページ <http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>
 e-mail nekkolnd@city.uozu.toyama.jp

